

衛生学実習

科目責任者 小 橋 元

学年・学期 3学年・3学期

I. 前 文

環境衛生・産業衛生分野における環境諸因子による健康への影響を把握予防するため、暴露諸因子のモニタリングは不可欠である。衛生学実習では、物理的環境測定、放射能測定、水質検査、化学物質暴露後の生物学的モニタリング、酵素活性の測定を行い、それらの評価方法を学ぶ。さらに、将来産業医として労働者の健康管理に携わることを想定し、労働現場で日常的に遭遇する症例を検討しながら、産業医の職務の実際について学ぶ。それぞれの実習項目において、終了後のグループディスカッションまたはレポートにより、その理解度を深める。また、レポートに関しては必要ならば訂正しフィードバックしたのち再提出させる。

II. 担当教員

教授	小 橋 元	公衆衛生学
准教授	小 松 渡	公衆衛生学
准教授	遠 藤 源 樹	公衆衛生学
講 師	岸 久 司	公衆衛生学
統 括	長 野 圭 司	放射線管理センター
非常勤講師	大 平 修 二	公衆衛生学
非常勤講師	秋 葉 一 好	公衆衛生学
外部講師	内 山 浩 志	桐生大学

III. 一般学習目標

・健康を保持増進するため、生活環境や労働環境での基本的な衛生学的実務・評価法を習得する。

IV. 学修の到達目標

生活環境および労働環境で遭遇する、物理的環境や有害化学物質による生体影響、さらには産業医としての実務を衛生学的に評価し、その対策等について考察できるようにする。

- 1) 仕事と健康、環境と適応、生態環境系、原因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全が健康と生活に与える影響を概説できる。
- 2) 各ライフステージの健康問題（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）を説明できる。
- 3) 産業保健（労働基準法等の労働関係法規を含む）を概説できる。
- 4) 中毒患者の検査と起因物質の分析を概説できる。
- 5) 有機リン剤、有機塩素剤と有機溶剤による中毒の機序、診断と治療を説明できる。
- 6) 重金属、青酸、ヒ素、パラコート、自然毒による中毒を概説できる。
- 7) 高温による障害（熱中症）を説明できる。
- 8) 振動障害と騒音障害を説明できる。
- 9) 放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。
- 10) 放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

1班6-7人程度の構成で4班を1グループとし、クラスを5グループに分け、以下の項目に関して毎回グループごとのローテーションによりすべての実習項目を行う。

[実習項目]

産業保健実習：有機溶剤曝露特殊検診；生物学的モニタリングとして尿中馬尿酸。鉛暴露特殊検診； δ -アミノレブリン酸の測定。

環境保健実習：水質検査；一般上水検査。物理的環境測定；温熱環境，粉塵，騒音，照度，放射線の測定。産業医の実務；症例に対する作業管理，作業環境管理，健康管理の検討。

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1, 2, 3	11	12	木	4, 5, 6	産業保健実習，環境保健実習，産業医の実務のそれぞれの項目	全 教 員	4
4, 5, 6		19	木	4, 5, 6	同上	全 教 員	4
7, 8, 9		26	木	4, 5, 6	同上	全 教 員	4
10, 11, 12	12	3	木	4, 5, 6	同上	全 教 員	4
13, 14, 15		10	木	4, 5, 6	同上	全 教 員	4

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

原則として、定期試験（80%）、各項目実習終了後の口頭試問・レポート、出席状況、予習を含めた実習への取組み姿勢など（20%）により総合評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書・実習書

公衆衛生学講座編集の衛生学実習用テキスト（予め配布）

参考図書

衛生試験法・注解 2020 金原出版 2020

産業医の職務Q & A 第11版 産業医学振興財団 2025

令和7年度 労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会 2025

その他、講義で推薦した参考書など

VIII. 質問への対応方法

・原則として実習中や口頭試問中が望ましいが、研究室などで随時、各担当者が受け付ける。但し、非常勤講師は出勤日が限られているので、予め連絡をとること。

・連絡先：公衆衛生学講座（総合教育研究棟11階／TEL：0282-87-2133, e-mail：pubhealth@dokkyomed.ac.jp）

月～金曜日（祝日を除く）8：30～17：00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試問・課題レポートについて解説し、提出物は必要なら添削し返却する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に示された、事前学習・事後学習を参考に、その要点を確実に自身の知識とすること。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。